

## 都中道研

第一一九号

会長 森岡耕平

府中市立府中第一中学校



教科化を前に今夏、都内の各市町村において、中学校道徳科の教科書採択が行われ、年間三十五時間の指導計画の作成に向けて各中学校の準備も具体的に始まることになりました。皆さんの学校での進捗状況はいかがでしょう。

「中学校学習指導要領（平成二十九年告示）解説 特別の教科道徳編」が発行され、私たちが手にできるようになったのは一学期

末のことでした。ウェブ上では公開されていましたが、道徳科開設の全貌をすべての先生たちが知り得るためにはまだ時間が必要だと思われまます。

道徳科では、生徒に特定の価値観を押し付けたり、主体性をもたず言われるままに行動するような指導を廃し、生徒が多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢を大切にします。また、発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、自分と向き合い「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図ろうとするところが求められました。

その目標は、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」（中学校学習指導要領第3章特別の教科道徳 第1目

標）とされました。

内容については、いじめの問題等への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的なものに改善すると共に、「個性の伸長」「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」「国際理解、国際親善」「よりよく生きる喜び」の内容項目を小学校に追加し、中学校では二十二の内容項目に整理されました。

さらに指導方法として、問題解決的な学習や体験的な学習などを取り入れ、読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導や発達の段階などを十分に踏まえず、児童生徒に望ましいと思われず、分かりきったことを言わせたり書かせたりする現状の改善と工夫が求められました。

その上で、評価について「生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。」（中学校学習指導要領「第3章 特別の教科 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の4）と明記され、一人一人のよさを伸ばし、成長を促

すための個人内評価が新たな取組として示されました。

このことを改めて、六十年前の中学校学習指導要領 第1章総則 第3道徳教育（昭和三十三年改訂版 文部省）と比較してみると、「道徳の時間においては、各教科、特別教育活動および学校行事等における道徳教育と密接な関連を保ちながら、これを補充し、深化し、統合し、またはこれとの交流を図り、生徒の望ましい道徳的習慣、心情、判断力を養い、社会における個人のあり方についての自覚を主体的に深め、道徳的実践力の向上を図るように指導するものとする。」とし、その内容は、「教師も生徒もいっしょになって理想的な人間のあり方を追求しながら、われわれはいかに生きるべきかを共に考え、共に語り合い、その実行に努めるための共通の課題である。」（第3章 道徳、特別教育活動および学校行事等 第2 内容）とされています。つまり、道徳の教科化は、その目標と内容に

において大きく変わらず、方法と評価において新たになったと捉えることができます。

その結果、多様な指導方法や多様な評価文例集が現れ、道德科について何から、どう手を付け、準備をしていくべきか混沌とした現状ではないかと思えます。

この混沌からの脱出の鍵は、新たな取組に向けて、まずは道德の時間の創設以来、一貫している目標と内容を改めて捉え、「道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習」の実践にあると思えます。

今年度の本研究会の事業として、総会、研修会、公開授業研究会を開催し、授業づくりを中心とした研究に取り組んでいます。

研究部では、毎月一回の定例会の前半に誰でも気軽に参加できる授業づくり研修会を開催しています。そして後半では全国大会、関東甲信越大会に向けた代表発表の研究協議に取り組んでいます。

また都内全中学校を対象とした

道德教育に関する調査活動、事例紹介を今年度も実施させて頂きました。年度末にはその結果を紀要にまとめ各校に配布し、教科化に向けた資料としてご活用頂けるよう取り組んで参ります。

最後になりましたが、今年度も本研究会の活動へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

**事務局だより**

事務局長 池田富太郎

中央区立佃中学校

一 総会・研修会

平成三十年五月十一日(金)中野サンプラザ研修室にて、平成三十年度の総会・研修会が行われました。

総会において、森岡 耕平会長(府中市立府中第一中学校統括校長)が承認されました。また、副会長、会計監査以下各部長・副部長も承認され、新たな体制が整備されました。翌年二月十五日に

実施される「研究発表大会」及び翌四月の「特別の教科 道德」完全実施に向け、充実した活動を行うというという熱意に満ちた総会・研修会となりました。

総会での主な承認事項及び研修会の概要は次の通りです。



(一) 総会

平成二十九年度活動報告・決算の承認、三十年度活動計画・予算の承認・新役員の承認等が行われました。

今年度の研究主題は、「指導と評価」に決まりました。この主題は、研究大会の大会主題と同じです。また、全国大会・関東甲信越ブロック大会における都中道研の提案内容と関連させる。平成三十一年度から始まる「特別の教科 道德」への基盤となるよう、研究を深めていきます。

(二) 研修会

研修会は、昨年に引き続き、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官、国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官の澤田浩一先生より、「特別の教科 道德」に向けた授業改善と評価の取組」を演題に、ご講演いただきました。

「道德科の目標の構造」「道德教育に係る評価等の在り方について」「道德科における『主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業改善について」「道德科の学習活動と評価」など、具体的で大変内

容の濃いご講演をしていただきま  
した。また、百部用意した資料が、  
すべてなくなるなど、参加者も多  
く熱気ある研修会になりました。



## 二 第一回部員総会・研修会

平成三十年八月二十一日(火)  
中野サンプラザ研修室にて、平成  
三十年度第一回部員総会・研修会  
が行われました。

森岡 耕平会長のあいさつの冒  
頭、本会顧問の佐藤義太郎先生の

ご逝去(本年七月七日)の報告が  
ありました。心よりご冥福をお祈  
り申し上げます。

来賓のあいさつとして、本会顧  
問の津田知充先生より、「考え 議  
論する道徳」ということが、注目  
されているが。昭和三十三年に道  
徳の時間が特設された際から大切  
にしている「共に考え、共に語り  
合う」時間であることを、重視し  
て指導にあたってもらいたいとの  
お話がありました。



## (一) 部員総会

各部長より、進捗状況と部員へ  
の周知事項の報告がありました。

特に、第四十七回関東甲信越中  
学校道徳教育研究大会山梨大会が、  
平成三十年十月十九日(金)に河  
口湖南中学校で実施されること、  
第五十二回全日本中学校道徳教育  
研究大会兵庫大会が、平成三十年  
十一月一日(木)・二日(金)に、  
神戸市を中心に開催されることが  
報告されました。

## (二) 研修の部

### ①今年度の研究経過

月田行俊研究部長より、本年度  
の研究経過及び平成三十一年二月  
十五日(金)に実施される東京都  
中学校道徳教育研究会発表大会  
の概要について報告がありまし  
た。

### ②第五十二回全日本中学校道徳教 育研究大会「東京担当」分発表 の概要について

大会分科会主題 「未来を切り

拓く力を育てる道徳」第五分科会  
「道徳教育推進教師の役割」につ  
いて、発表者である海老澤宏主幹  
教諭(八王子市立宮上中学校)よ  
り、説明がありました。

### ③第四十七回関東甲信越中学校道 徳教育研究大会「東京担当」分 発表の概要について

第一分科会「考え、議論する道  
徳の時間の工夫」について、当日  
欠席された発表者城戸加代子主幹  
教諭(江戸川区立葛西第三中学校)  
に代わり、月田行俊研究部長より  
説明がありました。



(三) 講 評

講師の東京都教職員研修センター  
研修部教育経営課教授 であり、  
本会顧問でもある峯川一義先生より  
指導・助言をいただきました。



- ・「特別の教科 道徳」について
- ・道徳科の教科書
- ・道徳科の教科書を見て
- ・来年度までに取り組むこと
- ・道徳科の授業で考えること  
(主題について)
- ・教材の活用
- ・これからの道徳教育、おさえ  
どころの内容について、懇切

丁寧にお話しされました。

多くの参加者が、熱心に取り組んだ会となりました。

第二回部員総会・研修会は、

平成三十一年一月十八日(金)  
十四時三十分より、中野サン  
プラザにて開催いたします。

内容は、第四十九回 東京  
都中学校道徳教育研究会研究  
発表大会における公開授業の  
指導案検討になります。

三 第四十九回 東京都中学校道徳教育研究会研究発表大会

道徳教育の一層の充実・発展  
のため、東京都中学校道徳教育  
研究会では、本年度も左記のと  
おり研究発表大会を実施いたし  
ます。多数の方のご参加を賜り、  
ご指導・ご助言をいただきます  
ようお願い申し上げます。

(二) 大会主題

「これからの道徳科の授業」

(二) 期 日

平成三十一年二月十五日(金)  
十三時三十分

(三) 会 場

昭島市立福島中学校

(四) 内 容

公開授業・研究発表・指導講話

(五) 講 師

国立教育政策研究所教育課  
研究センター研究開発部  
教育課程調査官

文部科学省初等中等教育局  
教育課程課 教科調査官

澤田 浩一 氏

平成三十年度の活動計画

研究部長 月田 行俊

江東区立大島西中学校

一 研究主題

「指導と評価」

二 研究主題設定の理由

学校における道徳教育は、自  
己の生き方を考え、主体的な判  
断の下に行動し、自立した一人  
の人間として他者と共によりよ  
く生きるための基盤となる道徳  
性を養うことを目標とする教育  
活動である。

そして、道徳教育は、社会の  
変化に対応し、その形成者とし  
て生きていくことができる人間  
を育成する上で重要な役割もも  
っている。

そのため、学校や生徒の実態  
などを踏まえて、設定した目標  
の達成を目指し、道徳科はもと  
より、各教科、総合的な学習の  
時間及び特別活動のそれぞれの  
特質に応じて行うことを基本と  
して、あらゆる教育活動を通じ  
て適切に行われなくてはならな  
い。

道徳科が目指すものは、道徳  
教育の目標と同様に、よりよく  
生きるための基盤となる道徳性

を養うことである。その中で、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育としては取り扱う機会が十分でない道徳的価値に関わる指導を補うことや、生徒や学校の実態等を踏まえて指導をより一層深めること、相互の関連を捉え直したり発展させたりすることに留意して指導することが求められる。

道徳教育の要となる道徳科の目標は、道徳性を養うために重視すべきより具体的な資質・能力とは何かを明確にし、生徒の発達の段階を踏まえて計画的な指導を充実する観点から規定されている。

その際、道徳的価値や人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践につなげるこ

とができるようにすることが求められる。

道徳科の授業では、特定の価値観を生徒に押し付けたり、主体性をもたずに言われるままに

行動するよう指導したりすることは、道徳教育の目指す方向の対極にあるものと言わなければならない。

多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、自立した個人として、また、国家・社会の形成者としてよりよく生きるために道徳的価値に向き合い、いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢こそ道徳教育が求めるものである。

そのためには、「道徳的諸価値についての理解を基にする」「自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める」「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」といった視点を踏まえた指導が必要である。

一方、道徳科での評価では、学校の実態や生徒の実態に応じて、教師の明確な意図の下、学習指導過程や指導方法の工夫と併せて適切に考える必要がある

とともに、個人内評価として、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、数値などではなく、記述による表現で評価することとなっている。

また「中学校の段階でどれだけ道徳的価値を理解したかなどの基準を設定することはふさわしくない」ことや、「道徳性の諸様相を分析し、学習状況を分析的に捉える観点別評価を通じて見取ろうとすることは道徳科の評価としては妥当ではない」といった指摘もある。

さらには、「年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する必要がある。」や、「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかという点を重視することが重要である。」という基本的な考え方も示されている。

評価のための具体的な工夫として「生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積したものや生徒が道徳性を養っていく過程での生徒自身のエピソードを累積したものを評価に活用する」ことや、「作文やレポート、スピーチやプレゼンテーションなど具体的な学習の過程を通じて生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する」等の例示もされているところである。

小学校では、今年度より「特別の教科 道徳」としての取組が始まった。

道徳科について通知表に記載する自治体もある。

そうした状況も踏まえ、道徳科の目標を達成するための、ポイントとなる指導とその指導をさらによりよくするための評価及び、生徒自身が自己の成長を実感できる評価を目指すために本研究主題を設定した。

### 三 研究部の組織と活動計画

今年度は、中学校における道徳科の教科書が採択される年である。

これまでは、副読本だったため、教材研究についても、特段気にすることもなく推進してきた。

しかし、これからは、それぞれの自治体が採択する教科書を踏まえる必要があるため教材研究をするにしても、配慮する必要が生じている。そうしたことも踏まえ、今年度、研究部の活動には大きく三つの柱で推進している。

第一は、毎年開催される全日本中学校道徳教育研究大会及び関東甲信越ブロック大会等の発表内容を深めることである。

平成三十年度は、全国大会は兵庫で開催され、東京都は、第五分科会「道徳教育推進教師の役割」を担当する。

また、関東甲信越ブロック大会は山梨で開催され、東京都は第一分科会「考え、議論する道徳の時間の工夫」を担当する。

このテーマを踏まえ、各提案者が毎回研究内容やプレゼンテーション資料を紹介し、質疑応答によって協議を深めている。

第二は、教科化に対応するために道徳教育を実践する部員の裾野を広げることである。

そのため、毎回ワークショップ等を実施し、部員の授業力向上に資するようにしている。

教科書を発行したどの出版社にも掲載されている「二通の手紙」を取り上げ、教材研究を行っている。

指導案作成に当たっては「考え、議論する道徳」という視点「主体的・対話で深い学び」という視点、「道徳的諸価値についての理解を基にする」「自己を見つめ、物事を広視野から多面的・多角的に考え、人間として

の生き方についての考えを深める」「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」といった視点、「本時の具体的な評価」という視点も踏まえて議論し、研究部として提案できる指導案となるようにしている。

この指導案は、二月に行う「公開研究授業」に反映する計画である。

第三は、調査活動である。

「道徳教育の充実に係るアンケート調査」を、これまでの調査内容を生かすとともに、「特別の教科 道徳」が中学校でも平成三十一年度から施行されることも踏まえたものとする。

各校で先行実施していることや、その準備に向けて多様な取組が行われていることも想定して、調査を実施する。

本調査では、各校の取組や実態を通して今後の課題を整理することを目的として、校長対象項目や道徳教育推進教師対象の

項目を設定し、道徳科に向けての現状と今後の課題等についてアンケートを実施する。

#### 都中道研のホームページ

<http://www3.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=13>

50004

#### 編集後記

一一九号をお届けします。森岡会長の下、動き出した都中道研の活動も三十年度の半ばとなりました。

広報部では、会員の皆様に、様々な情報がお伝えできればと考えております。

#### 広報部

江戸川区立西葛西中学校

中村清忠

調布市立第五中学校

生野まゆみ

立川市立立川第五中学校

酒井佳子

大田区立出雲中学校

佐藤正敏

世田谷区立梅丘中学校

廣澤和子